

1. 研究主題

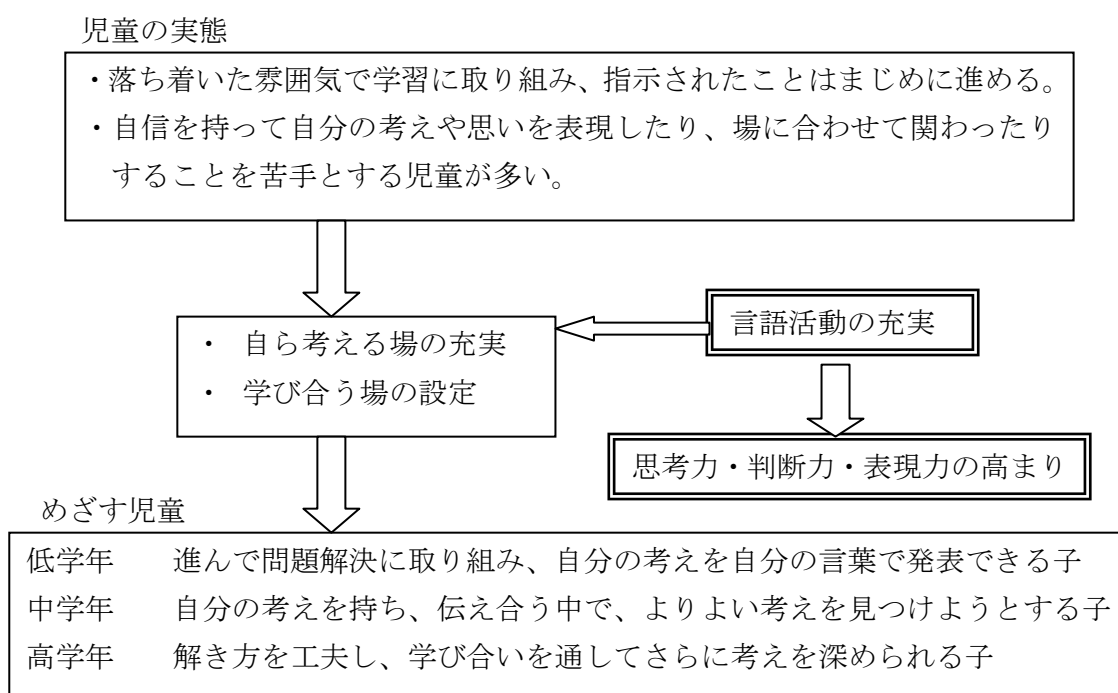
自分の考えを持ち、学び合う子の育成

2. 主題設定の理由

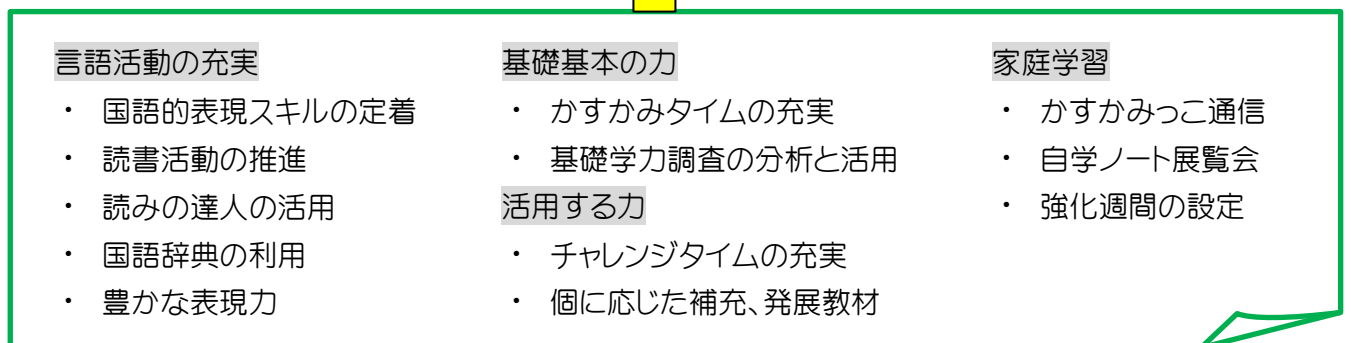
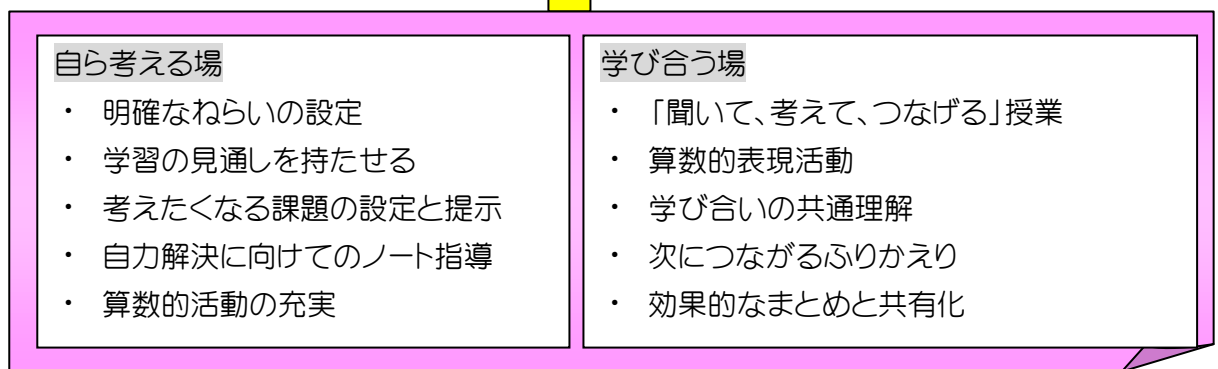
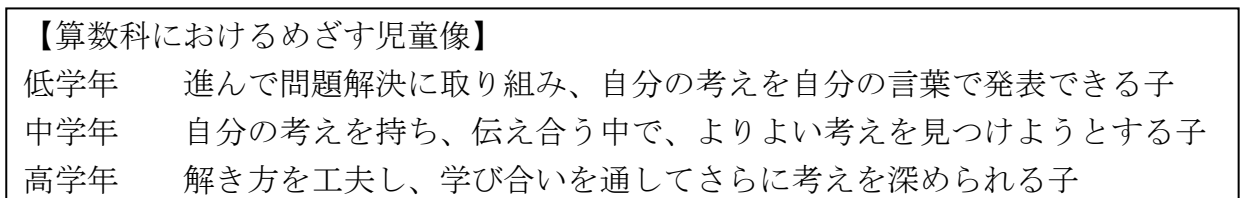
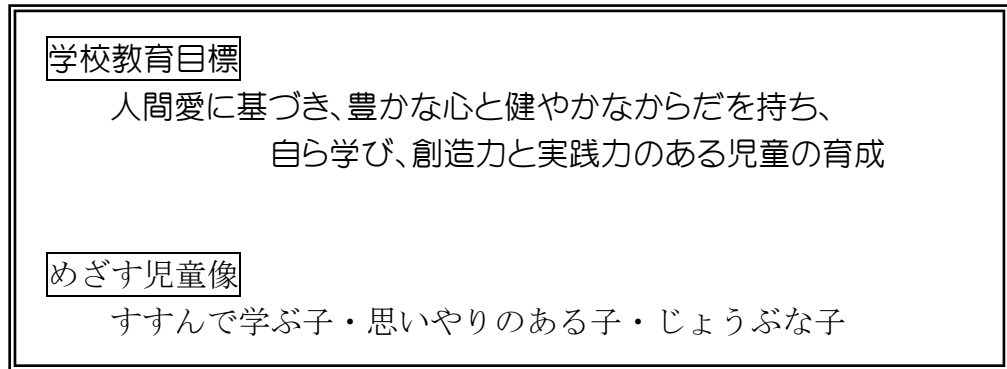
本校では、平成 21 年度より、算数科を通して、自分で課題を見つけ、自ら学び、考え、判断し行動する児童の育成を目指して授業実践を行ってきた。課題提示の工夫は、児童の学習に向かう意欲を高め、ノートやワークシートに考えをまとめさせることは、一人ひとりが自分の考えを持つ場を保障することになり、主体的に学習に向かう児童が増えてきていた。そこで、昨年度より「学び合う」に重点を置き、授業の中に学び合いの場を設定することを進めてきた。算数科の中で自分の考えを持てる子を育て、その考えを伝え合うことで、多様な考えによる学び合いができる子の育成を目指してきた。その結果、ノートやワークシートに算数的表現方法を用いて自分の考えを表す力は伸びてきている。また、少集団の中では、自分の考えを伝え合うこともできてきている。しかし、その伝え合いの中では、自分の考えを根拠を明らかにして筋道を立てて説明する力はまだ十分に身につけているとは言えない。また、全体の中で、多様な意見を出し合い、考えを広めたり深めたりすることはできていない。各教科等でも取り組んできた「読んで、思考し、表現する」という言語活動がまだまだ十分ではなかったためとも考えられる。

そこで、本年度は、昨年度までに積み上げたものを継続して実践するとともに、児童が目的意識をもって、「聞いて、考えて、つなげる」授業に主体的に取り組む授業実践を行うことで、根拠を明らかにして筋道を立てて伝え合う力を伸ばしていきたい。また、算数的表現力を系統的に育てることで、学び合う場での学びの質の向上をめざしたい。そして、自ら考えること、ともに学び合うことよさを実感できるような算数科の授業をめざして研究を進めていくことにした。

3. 研究の仮説



4. 研究の全体構想



5. 研究の内容と方法

(1) 「学び合い」について

学び合いは、授業のめあてを達成するための手立てであり、全体での学び合い、グループでの学び合いが考えられる。学び合いの中で、児童は自分たちで課題が解決できたという充実感を感じたり、多様な考えを聞き合うことができる。また、自分の考えを確かめ、深めたり広げたりしてよりよいものに変えていくことができる。

学び合う児童の姿

- ・ 児童が課題に対して自分の考えを持っていること
- ・ 児童が自分の考えを伝えていること
- ・ 児童が友だちの考えを自分の考えと比べながら聞いていること
- ・ 児童が自分の考えを振り返っていること

(2) 授業改善について

① 言語活動の充実を図り言語能力を高める。

ア 言語活動を取り入れた授業の共通理解を図る。

イ 各教科等のねらいを達成する言語活動を工夫する。

② 学習意欲を高める。

児童自身がめざす姿を知り、自己の学びを自覚できる工夫をする。

ア ねらいを明確にし、学習の見通しを持たせる。

イ 1時間の終わりや単元の終わりに学びの振り返りを書く。

(3) 算数科での取り組み

(ア) 言語活動の例

ア 式・図・グラフの意味や様子などを読み取る。

イ 自分の考えを言葉・数・式・図・表などを使って表す。

ウ 自分の考えたことを説明する・友達考えたことを聞く。

エ 課題を解決するために話し合う。

オ ねらいに即した問題作りをする。

カ 学習の振り返りを書く。

(イ) 課題設定の工夫

ア 数学的な価値があり、つけたい力が十分に意識されているもの

イ 解決したいという意識を持たせることができるもの

ウ ねらい達成につながる多様な考えの出せるもの

(ウ) 授業展開の工夫

ア 適用題の設定

イ 意図的・計画的な算数的活動の充実

ウ 目的に応じて交流する場や形態の工夫

(4) その他の取り組み

- ア かすかみタイムを利用して、計算力(基礎的・基本的な知識、技能)をつける。
- イ わくわくタイムを利用して、新しい問題に向かう意欲、数学的な考え方の力をつける。
- ウ 一人ひとりを大切に、よさを見つけ交流し自己肯定感を育む。
- エ 家庭と連携し、基本的な生活習慣の確立や家庭学習の習慣化を図る。

6. 授業の流れ

	場の設定	学習活動	留意点
つかむ		[既習を振り返る] 1. 本時の課題をつかむ。 2. 学習の見通しをもつ。 学び合い	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に考えたい課題と、提示の方法を考える。 ・既習を使つての解決に見通しを持たせる。
深める		<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> 3. 自分の考えをもつ。 4. 交流する。 5. 自分の考えを再度まとめる。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な考えの持てる発問を工夫する。 ・考えを書いてみることで明確にさせる。 ・目的に応じて、交流の形態を工夫する。(小集団・全体) ・考えを広めたり、価値付けたりする。
まとめる		6. 学びの振り返りをする。 課題についてまとめる。 学びの振り返りをする。 7. 次時の意欲をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・課題についてわかったことをまとめさせる。 ・自分の考えの変容や、友だちから学んだこと、学習に対しての感想を書かせ、評価する。

7. 研究の進め方

推進委員が中心となって研究の方向や進め方を提案し、各部の連携を図りながら実践を進めていく。

全体会

- ①全体協議の場で、研究の進め方について共通理解を図り、研究の方向や方法などを決定する。
- ②研究主題や内容について、講師を招いたりして、情報交換をしたりして学びあう。
- ③各部会の活動内容の協議や、授業研究会をする。

部会

①低・中・高の部会に分かれ、全体会・推進委員会の提案を基に、授業研究を行う。

全体研究授業・・・3回（計画訪問・要請訪問・校内研修サポート支援）

指導案検討は、部会で行った後、全体会で行う。

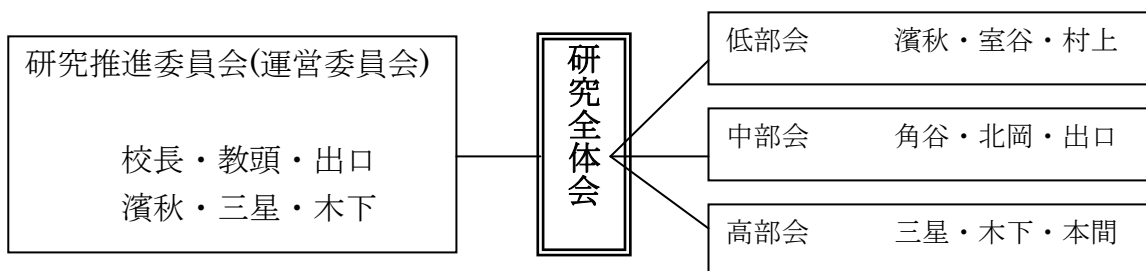
全体会で、模擬授業を行う。

部会研究授業・・・全体研究授業者以外も、1単元を選び指導案を立てて授

業を行う。指導案検討は部会で行い、整理会は全体で。

②それぞれの発達段階や児童の実態に合わせ、達成のための方策を探り、実践する。

研究組織



8. 研究のあゆみ

	推進委員会	全体会	研究授業
4月	9日	11日	今年度の研究の進め方
5月	15日	16日	年間計画・指導案の形式
6月	4日	11日 22日	5年模擬授業 計画訪問
7月	4日	6日	6年授業整理会
8月		31日	県教育センター校内研修サポート 4年模擬授業
9月	3日	28日	1年授業整理会
10月	16日	23日	生徒指導訪問
11月	7日	26日 30日	2年模擬授業 3年授業整理会
12月	10日	5日 19日	要請訪問 研究のまとめについて
1月	15日	18日	研究の成果と課題
2.3月			来年度の研究に向けて

※部会は、指導案検討や模擬授業を行うために、全体会の前後で行った。

6. 研究の成果と課題

【成果】

〈自ら考える場〉について

- ・児童の実態をしっかりとらえ、個に応じた手立てをたてることにより、課題に向かう姿は意欲的なものになってきている。手立てとは、取り組みを認める教師の声かけ、課題解決のヒントにもなる具体物の準備、そして、ペアやグループなどの学習形態の工夫などである。
- ・模擬授業によって、ねらいにせまるための明確な課題設定について、検討することができた。

〈学び合いの場〉について

- ・ペアやグループの学び合いで、友達の考えを聞く、自分の考えを話すことに慣れてきて、互いの考えの違いに気づける児童も多くなってきた。
- ・全体の学び合いでも、自分の考え、自分のグループの考えとの違いに注目して聞けるようになり、振り返りの中に、「みんなで考えたら～」「最初は～だったけど～」「〇〇さんの考えを聞いて～」というような、自分の変容をまとめた文章が増えてきた。また、その振り返りを共有することで、学び合いの良さにも気づけてきた。

〈生徒指導の3機能〉について

- ・一人ひとりの考えを大切にしていこうとする教師の姿勢が、クラス全体の共感的人間関係を良いものにしてきている。その中で、途中までであっても、自分の考えを表現していこうとする児童が増えてきた。

【課題】

- ・児童から出される様々な考えを、どうつなぎ、さらにどうつなげていくか、教師は教材研究と、授業力向上のための取り組みを続けていかななくてはならない。そのために授業公開期間も有効に活用していく。
- ・目指す姿、学び合いの姿や授業モデルを児童と共有し、そこに向けての自分自身の変容が分かるような振り返りやアンケートをとり、次年度へとつなげていく。
- ・学び合いの中で使える算数的表現のスキルを高めていくために、学年に合わせた指導項目を、系統的にまとめていく。